

「小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性」に対し

リスペリドン「ニプロ」を 服用される方とご家族の方へ



自閉スペクトラム症について

自閉スペクトラム症とは

● 症状

自閉スペクトラム症とは、自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群などの総称で、症状はさまざまですが、主に「社会的コミュニケーションの障害」、「限定的かつ反復的な行動の障害」といった特性が幼児期早期からみられます。また、大人になっても症状が完全になくなることはありません。

● 発症率

自閉スペクトラム症の発症率は0.6～1%程度といわれており、特に男の子に多いことが知られています。』

● 原因

自閉スペクトラム症は心の病気ではありません。脳の機能の発達にかたよりが生じた結果、症状があらわれると考えられていますが、そのメカニズムはよくわかっていません。環境の要因や遺伝的な要因などが関係しているという報告があります。

親のしつけや育て方が原因ではありません。

自閉スペクトラム症の治療法

自閉スペクトラム症の治療法には、心理社会的治療と薬による治療があります。現時点では根本的な治療法が見つかっていないため、自閉スペクトラム症の症状に対して心理社会的治療が行われ、薬による治療は症状に対する対症療法として用いられます。

● 心理社会的治療

環境調整、療育（発達支援）・教育、ソーシャルスキルトレーニングなど

● 薬による治療

生活に支障をきたすような症状や合併症がある場合、症状に応じて、抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗てんかん薬などが処方される場合があります。

1)日本精神神経学会 監修:DSM-5®精神疾患の診断・統計マニュアル:医学書院, 2014

自閉スペクトラム症に伴う^{い しげせい}易刺激性とその治療法

易刺激性とは、些細な刺激に対して反応しやすくなり、ちょっとしたことでも、イライラしたり、怒ったり、気分が落ち込んだり、と過剰に周囲に反応することです。

自閉スペクトラム症のお子さんでは、易刺激性により自傷行為や攻撃的な行為などがみられる場合があります。

易刺激性により、お子さん自身が怪我をする危険性や周りの人が危険な目にあうおそれがあります。



易刺激性は、薬によりコントロールすることが可能です。リスペリドン「ニプロ」は、自閉スペクトラム症の症状のうち、易刺激性をコントロールするために処方されます。



リスペリドンは 次のような症状に処方されます。

自分を傷つける
自分自身に苦痛を与える



暴力をふるったり
暴言をはく



抑うつ気分になる
(ゆううつ、気分が重い)



要求がすぐに受け入れられ
ないと気がすまない



参考)小野善郎 訳・著:異常行動チェックリスト日本語版(ABC-J)による発達障害の臨床評価:じほう, 2006

不適切に泣いたり
叫んだりする



かんしゃくを起こす
怒りっぽい、不機嫌になる



すぐに気分が変化する



物をこわす、地団駄を踏む、
ドアをバタンと閉める



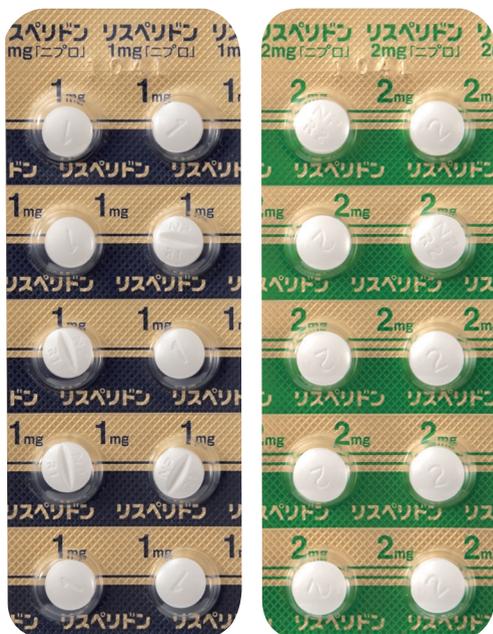
リスペリドンの飲み方

薬を飲む前に、処方された剤形の飲み方や注意点をよく確認しましょう。

飲む量や回数は主治医の指示に従ってください。

錠・細粒

- 主治医や薬剤師の指示に従って、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。



Q. 薬を飲み忘れてしまったらどうするの？

A. 飲み忘れに気付いた時点で、
すぐに1回分を飲んでください。

ただし、

- 2回分を一度に飲んではいけません。
- 次の薬を飲むまでは、5時間以上あけてください。
次の日からは指示通りに飲んでください。



Q. 誤って一度に多く飲んでしまったら？

A. 症状や体に変化があれば、
すぐに主治医・薬剤師に連絡してください。

下記の症状があらわれる可能性があります。

- 嗜眠状態(目が覚めない)
- 鎮静(静かになる)
- 頻脈(胸がドキドキする、めまい、動悸(どうき))
- 低血圧(からだがだるい、ふらつき、めまい)
- 錐体外路症状(動きが遅い、眼球が上を向く、手足のふるえやこわばり)

Q. いつまで薬を飲み続ければよいのですか？

A. 症状が落ち着いてきたら、薬の量を減らしたり、中止することがあります。
しかし、ご自身やご家族の判断で薬の量を減らしたり中止してしまうと
症状が悪化する可能性が高くなります。

様子をみながら徐々に薬を減らしたり中止したりする必要がありますので、必ず主治医に相談してください。

リスペリドンを飲むことができない、

リスペリドンを飲むことができない方

次の項目にあてはまる方は、リスペリドンによる治療を受けることができません。該当するものがある場合は主治医に伝えてください。

- 昏睡状態にある
- バルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある
- アドレナリンを投与されている（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、又は歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く）
- 過去にリスペリドンおよびパリペリドン（インヴェガ、ゼプリオン）で過敏症を経験したことがある



またはその可能性のある方

リスペリドンを飲むことができない可能性のある方

次の項目にあてはまる方は、リスペリドンによる治療を受けることができない可能性があります。該当するものがある場合は、主治医に伝えてください。

- 心臓や血管の病気、低血圧、またはこれらが疑われている
- 過去に不整脈があった、先天性QT延長症候群、QT延長を起こすことが知られている薬剤を使用している
- パーキンソン病
- てんかんなどのけいれんを起こす疾患を有する、または今までに起こしたことがある
- 死にたいと強く思ったり考えたことがある
- 肝臓に障害がある
- 腎臓に障害がある
- 糖尿病がある、または過去に糖尿病になったことがある、
糖尿病の危険因子(血縁に糖尿病の人がいる、高血糖、肥満など)がある
- 過去に薬剤で過敏症を経験したことがある
- 脱水があるまたは栄養状態が悪い

必ず守っていただきたいこと

他の薬を飲むときの注意点

いくつかの薬と一緒に飲む場合、組み合わせによっては、薬の作用が強く出たり、弱まったり、または副作用が出たりすることがあります。必ず主治医・薬剤師の指示通り服用してください。

- 薬局で薬を購入する際は、今飲んでる薬を薬剤師に伝えてください。
- 他の病気で、他の医療機関を受診した時も、必ず今飲んでる薬を医師・薬剤師に伝えてください。

糖尿病または過去に糖尿病になったことがある方

リスペリドン[®]は血糖値を上昇させる可能性があります。糖尿病の方や、以前に糖尿病と診断されたことのある方、または糖尿病のご家族がいる方、血糖値が高めの方などは、必ず医師に伝えてください。

日常生活での注意点

眠気、注意力、集中力、反射能力などの低下が起こることがありますので、この薬を飲んでる間は、危険を伴う機械の操作などは避けてください。

リスペリドンの主な副作用

薬は目的の効果以外に望ましくない作用を引き起こすことがあります。国内で行われた臨床試験や海外での情報から、主な副作用として次のような症状が報告されています。これらの症状があらわれたり、何かいつもと違うと感じたら、出来るだけ早めに主治医に相談してください。

起こりやすい副作用

不眠・眠気

食欲の増加

不安

倦怠感

体重の増加

高プロラクチン血症
(月経異常、乳汁が出るなど)

便秘

めまい

足がむずむずする、
じっと座ってられない

手足のふるえ、筋肉のこわばり、
小刻みな歩行、すくみ足

よだれが多い



リスペリドンの副作用 (特に気を付けていただきたい副作用)

次のような症状があらわれたら、
すぐに服用を中止して主治医に連絡してください。

- 急な高熱・発汗、唾液が増える、ものが飲み込み
にくくなる、脈が速くなる、筋肉がこわばる
- 口をとがらせたり、引っ込めたり、舌を出す
- 急におなかが張るような感じ、なかなか
治らない便秘とそれに続く腹痛、吐き気
- むくみが伴わない短期間での体重増加
- 発熱、発疹、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる
- 手足のしびれ・痛み、筋肉の痛み、
尿の色が赤褐色となる
- 動悸、胸の痛み、胸部の不快感、
脈が速くなるような感じ
- 頭痛やめまい、手足のしびれ
- のどが渇く、水をよく飲む、尿が多く出る



- ふらつき、脱力感、冷汗、頭痛、手足がふるえる
- 発熱、さむけ、のどの痛み
- 息切れ、胸の痛み、血を吐く
- 下肢のむくみ・痛み、手足の爪が青紫～暗紫色
- 性欲に関係なく起こる陰茎の持続する勃起

飲み始めのとき、再び飲むとき、 増量したとき

めまい、立ちくらみなどが起こることがあります。
これらの症状があらわれたら、
医師または薬剤師に連絡してください。



ご家族の方へ — 自閉スペクトラム症の

二次的な問題について

自閉スペクトラム症では、適切な理解と支援がないと、本来の特性ではない二次的な問題を引き起こす可能性があります。

起こりやすい二次的な問題

●いじめ被害

●うつ

●登校しぶり、不登校

●適応障害

●ひきこもり

●不安

●身体症状

●強迫性障害

●チック

(まばたき、頭を振る、顔をゆがめる、突然奇声を出す、咳払い、鼻鳴らしなど、自分の意思に関係なく、身体の一部に繰り返される筋肉などの動きや運動)

●心的外傷後ストレス障害(PTSD)

●被害関係念慮

(周囲で起きていることを自分と関係付けて被害的に解釈する)

お子さんの自閉スペクトラム症の特性は、大人になってもゼロになることはありませんが、二次的な問題を予防することは可能です。早期に治療を開始し、周りの人たちが適切な対応を学んでいくことが重要です。

より良い治療のためにー

自閉スペクトラム症のお子さんには、得意な領域と苦手な領域があります。次のようなことを意識しましょう。

得意な領域を伸ばして、 お子さんに自信をつけさせましょう。

お子さんに自信をつけさせるには、きちんとほめることが大切です。子どもが得意なことは、「できて当たり前」と思ってしまい、だんだんほめなくなりがちです。お子さんが得意なことや、ほかの人と違うことをほめるように意識しましょう。



苦手な領域の訓練に 比重をかけすぎないようにしましょう。

苦手克服の訓練だけが続けていると、二次的な問題が生じてくる可能性もあります。通常の子育ての一つと思われるようなことの中にも、自閉スペクトラム症のお子さんには苦手なものがあるかもしれませんので注意が必要です。偏食をなくそうと嫌いな物を無理に食べさせるとか、苦手な教科の勉強ばかりさせるのは避けましょう。

大人に相談してうまくいったという 経験をもたせましょう。

自閉スペクトラム症の人は、相談することが苦手です。お子さんが何かをうまくできないときは、何に困っているのかを丁寧に確認して、一緒に問題を解決するという姿勢を示すことが大切です。



